

わか草

賀正

江東区若洲海浜公園から見た
2021年初日の出
(撮影：益山龍雄診療部長)

第57号 令和3年1月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

オータムフェスティバル



新年のご挨拶

東京都立東部療育センター
院長 加我 牧子

二〇二一年、令和三年、丑年の新年おめでとうございます。コロナ禍中で緊張の絶えない日々ですが、この一年がみなさまにとって実りある素晴らしいものになりますように願っています。ご承知の通り、二〇二〇年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の知らせて始まり、豪華客船内の感染の話に驚きもなく、感染は国内に広がり、国際的にはWHOが三月十一日パンデミック宣言を出すに至りました。現在もパンデミックは収束の気配がなく、死者も増え続け、現在は二回目の緊急事態宣言下にあります。当センターは創立時から感染予防活動を重視してきましたが、二〇〇九年の新型インフルエンザ流行に際し、従来の感染予防対策マニュアルを大改定し、院内各部署の対応方針を決めていました。今回の感染拡大に応じて改定を重ね、二月二十一日にはすべての来院者に外来玄関での健康調査票チェックと体温測定を開始するなど迅速な対応を心がけてきています。呼吸障害、嚥下困難のある方々はただでさえ肺炎のリスクが高く、やむをえず病棟でも面会や外出、外泊など制限をさせていただいてます。入所者がこのウイルスに感染するとしたら、スタッフを含め外部からの

持ち込みしかありえないので、ご家族にもご協力をお願いせざるを得ず心苦しい毎日ではありません。

新年を迎え、都内のCOVID-19の感染爆発に、現時点で院内にCOVID-19の患者さんが一人も発生していないのは正直奇跡とも思えますが、なんとかこの奇跡を維持したいとのひそかな祈りの中で暮らしている状況です。いつ、それが感染してもおかしくない状況ですが、お互いできることを最大限実行し、この奇跡が継続してほしいというのが本音です。

東部療育センターは昨年十二月一日、十五回目の誕生日を迎えました。義務教育を修了し、青春真っただ中に突入する時期で、昔なら元服の年でもあります。二〇〇五年十一月末、各種セラモニーには滅多に出席されなかった石原慎太郎都知事は、有馬正高名誉院長が院内をご案内したあと、開設式典に出席され、「日本人の生命に対する感性、価値観によって、人々が協力して東京都立東部療育センターを誕生させたこと自体が、人類の将来にとっての誇るべきモニュメントになりうると思う」と祝辞を述べられたとのことです。石原都知事は強面の面が強調されますが、本来は小説家で、若くして亡くなられた弟の石原裕次郎さんについて記した作品「弟」は人間性への洞察、感性豊かな書であり、彼の命の哲学の根源が「誇るべきモニュメント」として表現されたものと思います。「税金を払えない者に税金は使えません」というのが、悪意なき常識だっ

第六十二回 日本小児神経学会学術集会に参加して

当初、五月末に新潟県で開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により八月に延期され、さらに開催会場も千葉県幕張メッセに変更されました。その後も感染の収束の目途が立たず、未曾有の緊急事態宣言が発令され会場の開催は中止となりました。

八月十八日火曜日から二十日木曜日の間、Web開催で行われました。

今年の学術集会のテーマは「理(ことわり)を知り病(やまい)を癒す」でした。ライブ配信のため会場で発表者、参加者と直接議論することはできませんでしたが、多くの教育講演やシンポジウムがネット上で開催され多くの知見を得ることができました。

今回は九月一日から三十日まで録画映像の配信を行ったため自分の都合の良い時間にじっくりと何度も講演を拝聴することができました。

感染拡大が1日でも早く収束することを願っておりますが、会場への移動や宿泊の予約も不要でありWeb開催の利点も多く感じられる学会となりました。

今回、得た知見が利用者の診療、治療に役立つように精進を続けたいと思います。

(医局 荒井)

第五十四回 日本作業療法学会(Web開催)

「作業の魅力・作業の力」暮らしを支える作業療法の効果」というテーマで日本作業療法学会が開催されました。本来、新潟県で開催予定でしたが、COVID-19の流行拡大を受けWebにてオンデマンド形式での開催となりました。

ました。そのため、普段であればスケジュールが重複して聞くことができなかった小児領域以外の発表も聴講することができました。

作業療法の効果を高めるために必要な生活の要素から、感覚・運動面の具体的なアプローチ

ちに至るまで幅広い視点で作業療法を学ぶ機会となりました。

(作業療法士 松木)



(二階西病棟 大隈)



クリスマス会

センターで行われたクリスマス会です。



通所&乳幼児通所



三階南病棟

例年であれば、大勢のご家族の参加があり賑やかな雰囲気の中で行われるクリスマス会ですが、行活動委員では今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、参加人数や時間などを考慮し、各部署で安全で楽しいイベントになるよう企画し準備しました。

密集を避けるため二部制で実施し、一回の参加人数が少なくなるように参加利用者の配置を綿密に検討しました。また一度に実施する部署は全員が参加しても密にならない方法で行うなど様々な工夫のもと実施しました。



三階西病棟

今回のクリスマス会は二回の参加人数が少ない中、ゲームやカクテルパーティーなどで大人の雰囲気を楽しむなど、アットホームな雰囲気でもいつも以上に盛り上がりました。利用者の皆様もクリスマスの華やかな雰囲気を感ずることができたと思います。

(三階西病棟 橘)



二階西病棟



二階南病棟



当日、振る舞われたクリスマスパフェ

写真につきましては、掲載の許可をいただいております。

ボランティア紹介

アトラクションボランティア

昨年度末より新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた「アトラクションボランティア」(歌やダンス、楽器演奏等のボランティア活動)は、感染予防対策を行った上で、九月より再開しています。

ボランティアの皆様には別室(プレイルーム)で演奏をしていただき、Web会議システムZOOMにてオンラインライブ配信を行い、病棟や通所の利用者の皆様に視聴していただきました。視聴する側は、プロジェクトやスピーカーを用意し、ライブ感を味わえるような環境を整えました。初めての試みのため、接続がうまくいくか、音がうまく聞こえるか不安でしたが、ボランティア委員、各部署のスタッフの協力もあり、リハーサルを重ね無事に本番を迎えることができました。利用者の皆様の笑顔が見られ、例年とは違う環境ではありましたが、楽しんでいただくことができました。

無観客での演奏はボランティアの皆様も初めての経験で大変だったかとは思いますが、利用者の皆様に素敵な演奏を届けていただき、ありがとうございます。まだまだ新型コロナウイルス感染症終息の兆しがみえませんが、利用者の皆様に楽しい

時間をお届けできるよう「新しいボランティア活動」を模索していきたいと思います。

(地域療育支援室 中石)

参加していただいたボランティアの皆さんとアトラクションボランティアのようすをご紹介します。

みの&とむ

★九月二十三日、十二月二十六日

(通所クリスマス会)
沖縄三味線&ギター演奏。沖縄の曲に心癒され、「パプリカ」では歌とダンスで楽しませていただきました。



みの&とむさんと通所のようす

アンコール

★十一月二十五日

尺八&ギター演奏。日本古来の尺八の音色に、日本の四季を感じることができました。



アンコールの皆さんと病棟のようす



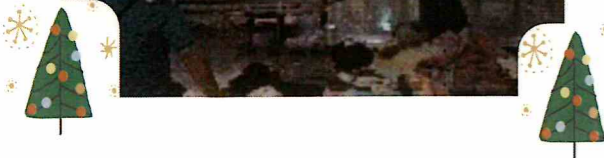
MAMO&MIE

★十二月十四日(通所クリスマス会)

ジャズ演奏。イルミネーションがきれいな中、クリスマスソングから洋楽まで、ジャズの魅力にうっとりしてしまいました。



MAMO&MIEさんと通所のようす



第二十九回 医局講演会

「自閉スペクトラム症（ASD）の
治療・支援を考える」

講師 齊藤 万比古先生



齊藤 万比古先生

令和二年十一月二十日（金）日本を代表する児童精神科医のおひとり、恩賜財団母子愛育会愛育研究所愛育相談所長齊藤万比古先生にご講演をいただきました。ASDはコミュニケーションと社会的相互交流の障害があり、こだわりや感覚の異常（敏感または鈍感）を合わせもつ疾患であり、自己と他者の関係についての認知に必要な「メンタライジング機能」が障害されている。ASDの治療・支援の基礎である心理社会的治療として①生きていくための基本的技能を身に着ける②自己確立のための支援③自立して生きられるような環境整備の重要性を上げ、対症療法としての薬物療法を選択し、親をねぎらい、支援者が本人と社会との通訳機能を果たせるようにすることに、最終目標に向けた具体的な道筋を示す過程をわかりやすく紹介していただきました。

（医局 加我）

第四十回 医局講演会

「脳性麻痺患者の緊張
コントロールとボトックス」

講師 瀬下 崇先生



瀬下 崇先生

令和二年十二月八日（火）リハビリテーションセンターエルワイズ病院の瀬下崇先生にご講演をいただきました。一口に緊張といっても①関節の動きの範囲が狭くて硬い②筋緊張が亢進している③痛そうな様子などご家族の訴えは様々な状態をさしており、それぞれ主に①拘縮を防ぐ②原因を探し、介助法の工夫、薬剤の内服、手術、ボトックスなどを考慮し実施する③本人の状況を理解し、成長段階に応じた対応を考慮するなどの対策が重要なことを的確な臨床例を通して教えていただきました。特に診断の重要性、診断に基づく治療処法を患者さんの状況に応じて決定していくプロセスの重要性を指摘いただきました。脳性麻痺の患者さんとの長期の関わりの中で、ご本人に最も必要な診断と治療、サポートを届けていらっしゃる先生の実力と医師としてのフィロソフィーをも垣間見ることができました。

（医局 加我）

導入 空気感染隔離ユニット



新型コロナウイルスの空気感染防止を目的として「空気感染隔離ユニット」を導入しました。感染発症生時、病棟入口や個室のドアに取り付けるだけで空気感染隔離が可能となります。今後の感染対策に活用してまいります。

部門紹介 通所

平成十八年四月から通所事業が始まりました。令和三年度には十五周年を迎えます。当初十五名から始まった生活介護事業（成人通所）は現在四十三名、児童発達支援事業（乳幼児通所）は十二年前からスタートして現在は十六名の在籍があります。

この十五年の間、通所事業は超重症・準超重症児（者）の割合が高く、年々医療的ケアを必要としている利用者が増加してきました。成人通所は開設当初から掲げていた、活動範囲を拡大し、生活がより充実したものになるように、日中活動や行事など工夫をして療育を展開してきましたが、近年では健康維持をどのように図っていくかが重要になってきています。

家族の支援を目的として始まりました。障害を持つ家族同士の出会いや交流の場としても重要な役割を持っています。現在は昨年から続く新型コロナウイルスに対する感染対策を実施しながら運営を行っています。ご家族の皆様には苦勞をお掛けしていますが、通所での密集をできるだけ軽減するために利用定員を一日二十名まで、乳幼児は一日三名までとさせていただきます。ご家族の皆様のご理解とご協力を頂きながら、これからも感染対策をしっかり行い、通所事業を継続してまいります。

今年度は外出行事が困難であったので室内での日中活動に力を入れて、体験型の活動を水族館やデイズニー企業

今年度は外出行事が困難であったので室内での日中活動に力を入れて、体験型の活動を水族館やデイズニー企業

今年度は外出行事が困難であったので室内での日中活動に力を入れて、体験型の活動を水族館やデイズニー企業

今年度は外出行事が困難であったので室内での日中活動に力を入れて、体験型の活動を水族館やデイズニー企業

今年度は外出行事が困難であったので室内での日中活動に力を入れて、体験型の活動を水族館やデイズニー企業



東部あれこれ

十月から十二月、秋のセンターの動きです。

【十月】十月は曇りや雨のあいにくの天気の日が多かったのですが、恒例のオートムフェスティバルが開催された十三日と十四日は雨が降ることもなく、療育場で元気な「なのはなバンド」の演奏に聴き入ったり、ベランダで外気浴や果実の収穫などが堪能できました。

また、下旬には、かめめ分教室の児童・生徒の皆さんは病棟のデイルームで学習発表会を行いました。二十九日には、城東消防署が八年ぶりに立入検査を行い、院内を詳細に確認した後、指摘・指導がありました。また、火災時の避難誘導等について意見交換し、具体的な助言をいただきました。

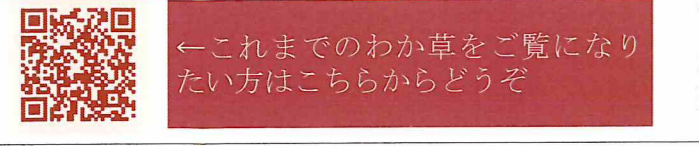
【十一月】四日、東京では三年ぶりの木枯らし一号が吹き寒くなりましたが、十一月は晴れた日が多く、中旬・下旬は気温も高い日が多くなりました。十八日、二南と三西の病棟では、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった遠足に代えて映画企画を楽しみました。十一月に入り、都内では新型コロナウイルスの感染者数が大幅に増え、重症化リスクの高い高齢者も増加していることから、東京都は十九日に、「感染状況」を最も深刻なレベル「感染が拡大していると思われる」に引き上げました。

【十二月】

一日はセンターの開設記念日でした。栄養科による心のこもった特別メニューを皆でいただき、十五周年をお祝いしました。また、八日から十八日にかけて、乳幼児通所、成人通所、各病棟でクリスマス会が開催されました。それぞれ趣向が凝らされたレクリエーションやゲーム、出し物などで楽しい時間を過ごし、クリスマスカードを胸にケークリースマス！

あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で、利用者の皆様をはじめ私ども職員にとりましても閉塞感のある一年間でした。今年も院内感染を防ぐため、利用者・ご家族の皆様には引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。今年一年の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を祈念しています。

【編集後記】



【給食の紹介】調理いろいろ～食事疲れ対策 1～
2020年～栄養科が取り組んでいる「食事疲れ対策」をご紹介します。
私たちは、食事を摂る時にもエネルギーを消費しています。
●重症児（者）にとって「食事疲れ」とは
●捕食から嚥下までに時間を要する状態
●食事開始から10～15分後くらいから出現
●完食までの時間が延長され、より疲労する状態
その結果、エネルギーが十分に摂れない場合が生じます。
対策①
白粥にオイルを加えて、食べる量を減らす
MTCオイル2gやゴマ油4～5g加えてエネルギー量は減らさず、粥量を20～30%減らして、食事時間を短くする方法
MCTオイルとは、消化エネルギーとして利用されやすく、健康被害を生じにくい中鎖脂肪酸で構成されています。